

『 書 道 』 シラバス

科 目 名	学 科	学 年	必修 / 選択	単 位 数
書 道	全学科	1 年	選 択	2 単位

1 . 科目目標と使用教材

科目目標	文字を媒体として作品を書いたり、鑑賞したりを通し、生徒が自分で表現しようとする態度へと導く。
使用教材	教科書：書（光村図書） 書道具（硯、墨、文鎮、大筆、小筆、下敷き、紙、等）・硬筆用ボールペン

2 . 学習計画

学期	学 習 項 目	学 習 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道具の取り扱い方、授業前の準備の仕方、後片付けの方法 ・ 基礎的楷書の実技（半紙2～6字） 中国古典への理解 ・ 第1回硬筆検定への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係。 ・ 中国古典を取り上げ、楷書の字形の構成・全体の構成と2字～6字を各々書いて、表現の違いを学ぶ。 ・ 硬筆検定対応（ボールペン使用でサブノートを使用し、正しく美しく書く必要を学ぶ）
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的行書の実技 ・ 行書としての古典を学ぶ。 ・ 第2回硬筆検定への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現力を身に付けられるよう反復練習をする。 ・ 一学期取得した級よりさらなる高い目標へ進む。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本独自のかな文字の学習 文字の配列を学ぶ。（いろは～） ・ 鑑賞：美術館に出掛けて現代の芸術活動を鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典に基づく基本的な点画、線質の表し方用筆・運筆の関係が理解できるようにする。 ・ 単筆、連綿を反復練習して、俳句が書けるようにする。

3 . 学習方法

- ・学期ごとにひとつのテーマを定めて、いろいろな側面から学んでいく。
一応の知識は最初に教示はしても、自分で探してみる・やってみる・失敗したらやり直すという知りたいことへの意欲を持つ。特に2学期の作品制作は常に発表の場を意識して挑戦していく。
- ・時間ごとの学習の成果（清書）はそのつど必ず提出する。これは学期の成績に繰り込んでいく。

4 . 評価の観点

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備が出来ているか。 ・授業に集中しているか。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・道具、使用目的を正しく知った上で、取り扱えるか。 ・書によって道具の違いがわかるか。
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・教科内実技で、意図するところが的確に据えられているか。 ・目標を高くおいて、積極的に書く意欲を持つことができるか。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・取り扱う書の時代背景と技術の変遷を理解出来るか。

5 . 成績評価

1・2学期	中間	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>中間考査は行いません。</p>	定期考査 (素点)	平 常 点				%	%	%	%	%
	定期考査 (素点)	平 常 点										
%	%	%	%	%								
	期末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点・実技)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>提出物 10%</td> <td>意欲態度 30%</td> <td>出席 10%</td> <td>%</td> </tr> </table>	定期考査 (素点・実技)	平 常 点				50%	提出物 10%	意欲態度 30%	出席 10%	%
定期考査 (素点・実技)	平 常 点											
50%	提出物 10%	意欲態度 30%	出席 10%	%								
3学期	学年末	<table border="1"> <tr> <td>定期考査 (素点・実技)</td> <td colspan="4">平 常 点</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>提出物 10%</td> <td>意欲態度 30%</td> <td>出席 10%</td> <td>%</td> </tr> </table> <p>* 学年の評価は (1 + 2 + 3学期) ÷ 3 とする。</p>	定期考査 (素点・実技)	平 常 点				50%	提出物 10%	意欲態度 30%	出席 10%	%
定期考査 (素点・実技)	平 常 点											
50%	提出物 10%	意欲態度 30%	出席 10%	%								

6 . 生徒の皆さんへ

1学年中、2回（6月・11月）の硬筆検定を必修とします。資格取得として取り扱います。他、希望者には毛筆の段級取得の途もあります。

《書道学習のサンプル》

書体の移り変わりを古典から学ぶ



文字を美しく書こうと努力した先人の筆跡は、金属や石に彫られたり、木や竹、布や紙に残されて現代に伝わっている。それらのうちで、歴史的に評価の定まった書跡を古典と呼ぶ。そのような古典は、わたしたちが鑑賞したり、実際に筆をとって習うことのできる教材である。

臨書とは、古典を手本に学ぶことで、それには次の方法がある。

形臨...古典の字形を正確に観察しながら、忠実に書くこと。

意臨...古典に秘められている原理や精神をとらえて書くこと。

背臨...古典を習ったあとに、原本を見ないで書くこと。書の創作とは、自己の意図に基づき、創意工夫することによって作品を創ることである。そのためには、十分な臨書や鑑賞を通じて、古典の美を観察、分析し、それによって身に付けた表現方法や、感性をいかすことが大切である。

